

長崎国際大学大学院薬学研究科特別講演会/日本薬学会九州支部会共催

## 「糖鎖創薬の可能性と課題」

2014年9月11日(木) 午後5時- 会場: 薬学部会議室

公立大学法人横浜市立大学大学院  
生命ナノシステム科学研究科・教授

大 関 泰 裕

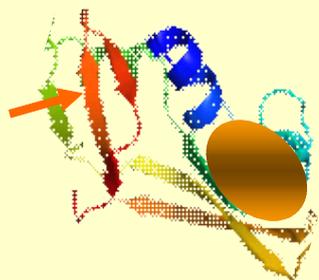
血清タンパク質、細胞接着因子、種々のリンパ球表面抗原など、多くのタンパク質・脂質は糖鎖が付加した複合糖質として存在します。がん胎児性糖鎖抗原の発見や、造血ホルモンの効果に糖鎖が必須で、インフルエンザやピロリ菌の感染に糖鎖が関与する事実、経産省の産業総合研究所が2014年4月より糖鎖創薬技術センターを開所したニュースは医薬分野での糖鎖の関心の高さを示唆します

演者は糖鎖結合タンパク質(レクチン)の一次構造解析を通じて糖鎖研究に関わり、1991年に決定し全く類似性が見られなかったレクチンのアミノ酸配列が、報告から20年間を経て1000種以上ホモログが発見されたり、新規一次構造を2012年に発表後、思わぬタンパク質ファミリーとの立体構造の類似が見つかり、分子形態学の新しい研究発展の可能性が生まれてきました

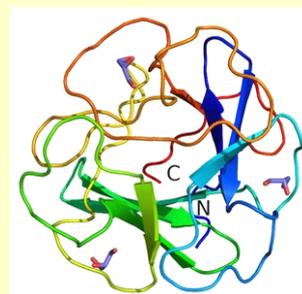
現在、長崎国際大学と共同研究を開始し、両生類卵RNaseのシアル酸糖結合と、糖鎖依存的ながん細胞死を報告しました。貴学のオリジナリティ高い糖鎖研究も紹介しながら、日本の貢献度が高い糖鎖生物学と創薬の可能性を紹介します

講演者情報: <http://researchmap.jp/1124/>

(主催者: 機能形態学研究室教授・藤田英明 内線3719)



九州でのSBL研究は、NIUがオンリーワン。日米共同で、一次構造、強力な抗癌作用、RNase活性、シアル酸糖合活性が解明され、細胞死経路の詳細が究明



結晶解析でリシン毒素との類似が判明したMytiLecレクチンは全く新規な一次構造を有す。NIUとの共同研究は細胞の新たな増殖制御機構の解明に期待される